

# 横浜市インフルエンザ流行情報 4号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## 《トピックス》

### 定点あたり 40.0 を超えました。

**【概況】**

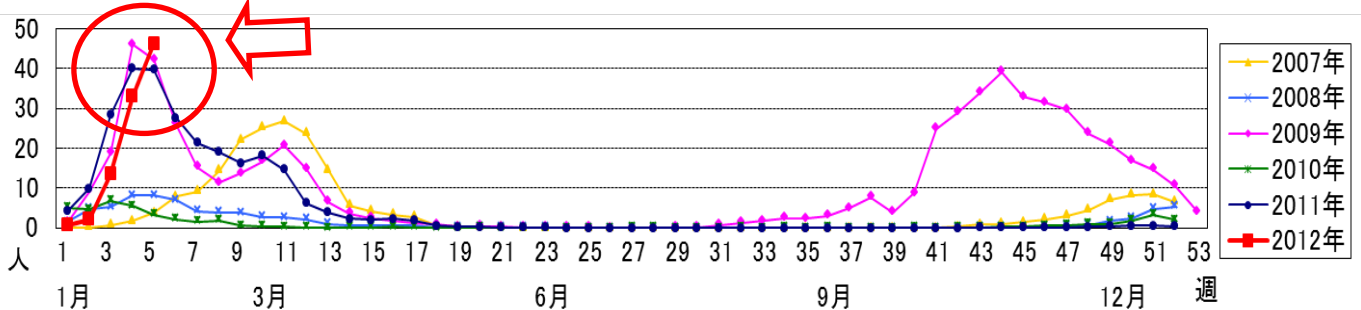
第5週(1月30日～2月5日)に定点<sup>※1</sup>あたり **46.35** となり、前週の 33.02<sup>※2</sup>からさらに増加しています。例年のパターンから考えると、ここ数週間が流行のピークになると思われます。迅速キットやウイルスの検出結果では、徐々にB型も増加してきました。今後はB型の流行に注意が必要です。インフルエンザの予防では、手洗い、うがいを心がけ、人混みを避けるようにしましょう。咳や熱が出たら医療機関を早めに受診し、こじらせないようにしましょう。また、咳が出るときはマスクをして人にうつさないようにすることも大切<sup>※3</sup>です。

※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

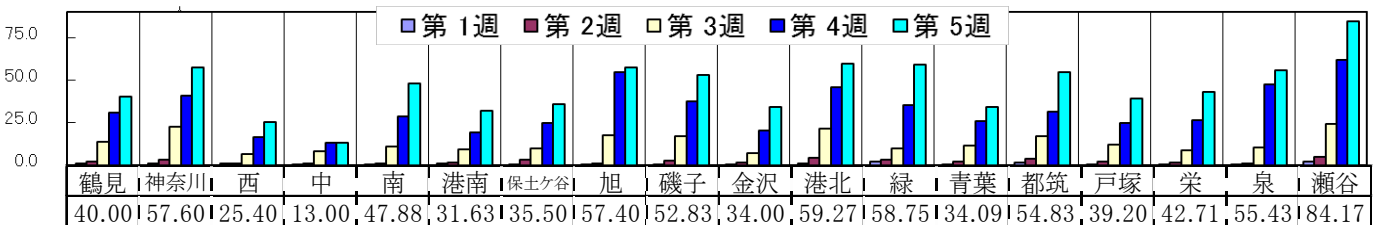
※2 追加報告があったため、前回の流行情報と数字が異なっています。

※3 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

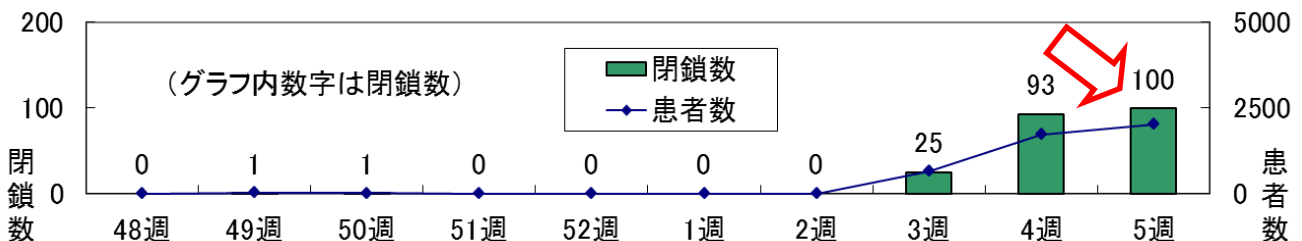
**1 市内流行状況:** 第5週に定点あたり 46.35 となり、第4週の 33.02 からさらに増加しています。例年流行のピークは定点あたり 40.0～50.0 程度ですので、ここ数週間が流行のピークと考えられます。



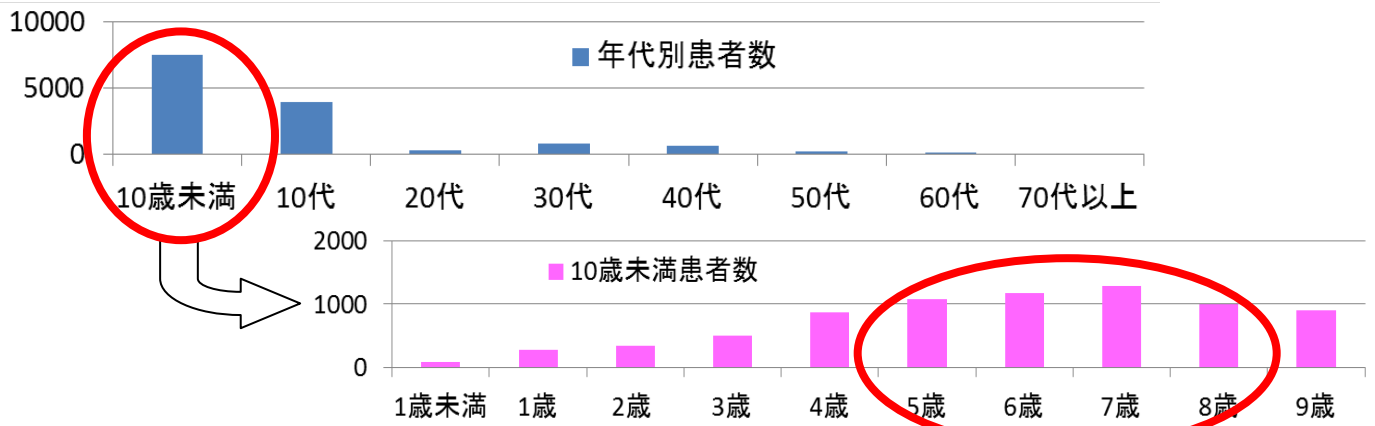
**2 区別流行状況:** 最も多い区は瀬谷区 84.17 で、次に港北区 59.27、緑区 58.75、神奈川区 57.60 などとなっております。警報レベル 16 区、注意報レベル 2 区と、すべての区で警報か注意報レベルです。



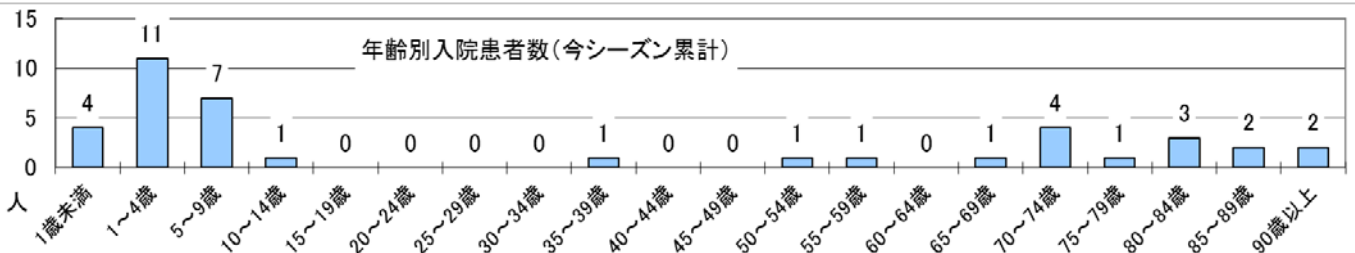
**3 市内学級閉鎖等状況:** 第5週 100 件と、前週の 93 件からさらに増加しています。施設種別では多い順に、小学校 69 件、幼稚園 20 件、中学校 8 件、高校 3 件です。第6週に入っても引き続き各区から報告が来ています。



4 年齢層別集計:第1週から第5週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では5~8歳で多くなっていました。



5 入院サーベランス:市内基幹定点※4医療機関における、インフルエンザの入院患者の集計です。入院患者数は徐々に増加中であり、年齢別では10歳未満が多くなっています。

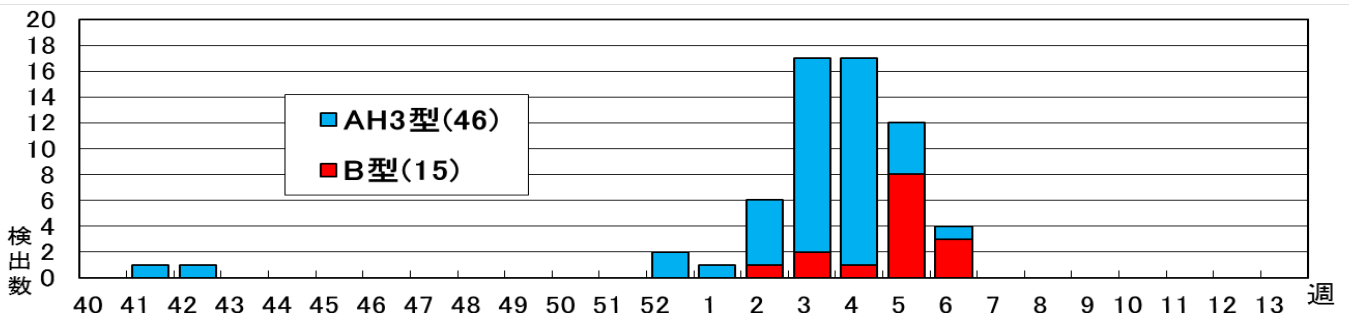


※4 基幹定点:基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。

6 迅速キット結果:医療機関での迅速キット結果の集計では、依然としてA型がほとんどを占めていますが、徐々にB型も増加し始めました。



7 病原体検出状況:患者さんの検体を横浜市衛生研究所で検査したところ、インフルエンザウイルスが61件検出されましたが、その種類はAH3型46件(75.4%)、B型15件(24.6%)でした。今シーズンはAH3型主体の流行ですが、5週目以降B型が増加しています。



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463  
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9816  
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045(754)9804